

長崎県植物誌ノート(22)

中西 弘 樹

Hiroki NAKANISHI: Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (22)

Abstract: Seven species and one variety including two alien plants which were newly found in Nagasaki Prefecture and eight rare species were described in this paper. New localities of *Adina pilulifera* and *Ajuga pygmaea* are the northern limit of their distributions, respectively.

はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。標本の一部を同定していただいた千葉県立中央博物館の中池敏之博士、新産植物と希少植物についての情報をいただいた川口祥勝氏、宮崎勉氏にお礼を申し上げる。

県新産の植物

新産の在来種

228. エンシュウベニシダ *Dryopteris medioxima* Koidz. (オシダ科)

長崎市小八郎岳南西部[長崎3, 4829-76-98], 150m, Apr. 11. 1998, (No. 17461); 東彼杵郡川棚町虚空蔵山[早岐2, 4929-47-93], 380m, July. 31. 1999, (No. 18456)

サイゴクベニシダとマルバベニシダの中間の形質をしている。すなわち褐色の鱗片が密生する点はサイゴクベニシダ的であり、胞子囊群が中肋よりに着く点はマルバベニシダ的であるが、両種の雑種ではない。

229. ヤマヌカボ *Agrostis clavata* Trin. (イネ科)

南高来郡小浜町雲仙鬼人谷[島原3, 4930-12-13], 1200m, Aug. 23. 1996, (No. 16267)

ヌカボに比べて花序の枝がまばらにつき、花時に開出する。また花期はヌカボより1ヵ月以上遅く、初夏である。佐賀県には知られていたが、長崎県では初めての発見である。

230. ゴハリマツモ *Ceratophyllum demersum* L. var. *quadrspinum* Makino. (カヤツリグサ科)



図1 ゴハリマツモ

壱岐郡石田町石田触[勝本2, 5029-56-01], 200m, Sept. 27. 1998, (No. 18008)

マツモの変種で果実の突起がふつうのマツモでは3本であるが、本変種は5本である。突起の長さは変異し、長いものは10mm以上になる。水草の果実にはしばしば突起のあるものがあり、散布に役立つものと考えられる。県内のマツモについて果実を調べた例はほとんどなく、今後各地から発見されるものと思われる。

231. ゴマシオホシクサ *Eriocaulon senile* Honda. (ホシクサ科)

西彼杵郡琴海町檜ノ久保[大村4, 4929-26-10], 100m, Oct. 25. 1998, (No. 18193); 長崎市松崎町[大村4, 4929-26-20], 180m, Oct.

18. 1998, (No. 18161)

本種は静岡県以西の本州、四国、九州に分布するが希で、長崎県にはこれまで知られていなかった。生育地は琴海町が山間の湿地、長崎市が山間の放棄水田で、両産地は距離的には近い。頭花はやや白みがかった藍黒色である。

232. タニワタリノキ *Adina pilulifera* (Lam.) Franch. (アカネ科)



図2 タニワタリノキ

長崎市多以良町多以良町 [長崎3, 4929-16-83], 110m, Mar. 22. 1998, (No. 17391)

九州では鹿児島県と熊本県天草に知られていたが、長崎県からは初めての発見であり、本種の北限自生地となる。九州の東海岸には北上分布してはおらず、九州西廻り分布型植物に含まれる。

233. マルバハダカホオズキ *Tubocapsicum obtusum* (Makino) Kitam. (ナス科)

南松浦郡奈留町泊郷 [漁生浦2, 4928-17-75], 10m, Jan. 22. 1998, (No. 17336)

川口祥勝氏によって採集されたもので、ハダカホオズキに似ているが、葉は厚ぼったく、和名のように丸味を帯びている。

新産の帰化植物

234. イヌシバ *Stenotaphrum secundatum* Trin. (イネ科)

西彼杵郡野母崎町樺島 [野母崎4, 4829-66-52], 100m, June. 14. 1997, (No. 16778) ; 同 町野母崎 [野母崎3, 4829-76-00], 1m, July. 4. 1998, (No. 17764)

本種は野母崎町にある亜熱帯植物園の中の芝

生に使われているが、野母崎町の各地の海岸付近の空き地に広がっている。植物園からはかなり距離的に離れているので、そこから逸出したとは思われない。南方系の植物で、シバの代用として利用価値がある。

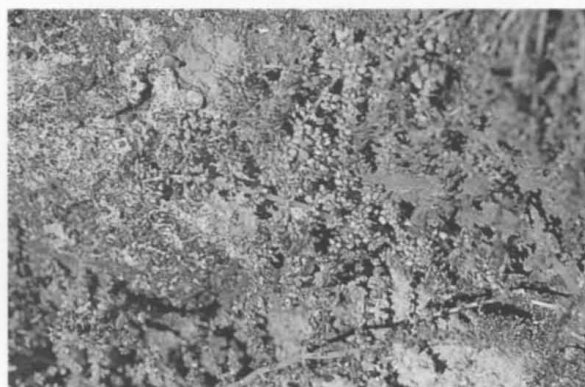


図3 コゴメミズ

235. コゴメミズ *Pilea microphylla* (L.) Liebm. (イラクサ科)

長崎市茂木町 [長崎2, 4929-07-42], 20m, Jan. 18. 1999, (No. 18420)

南アフリカ原産で、熱帯や亜熱帯地域に広く帰化しており、日本では沖縄に知られている。全体小型で、やや多肉質である。長崎市茂木町の古い住宅街の道端に生育している。

希少植物の産地追加

194. ヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* Bl. (オシダ科)

西彼杵郡西海町 [佐世保南部2, 4929-45-13], 120m, Nov. 1. 1997, (No. 17271)

長崎県ではこれまで福江島の翁頭山地域にごく希に知られていただけである。和名はノコギリシダがつくが、それには似ていなく、コクモウクジャクやシロヤマシダにやや似ている。



図4 ヒロハノコギリシダ

195. オオホシクサ *Eriocaulon buergerianum* Koernicke (ホシクサ科)

長崎市松崎町 [大村4, 4929-26-20], 180m, Oct. 18. 1998, (No. 18164)

長崎県ではこれまで東彼杵町, 大村市から知られていたのみである。上記の産地は古い放棄水田で, ゴマシホオシクサなどと生育していた。葉は幅が4~9mmで, 先は次第に細くなる。

196. クモキリソウ *Liparis kumokiri* F. Maekawa (ラン科)

長崎市熊ヶ峰 [長崎2, 4929-07-10], 565m, July. 20. 1998, (No. 17867)

山地に多く, やや温帯性のランで, 多良山系ではそれほど珍しくはないが, 長崎市では初めての記録である。熊ヶ峰山頂付近の林縁部に生育していた。

197. イワタバコ *Conadron ramondiioides* Sieb. et Zucc. (イワタバコ科)

長崎市飯香の浦 [長崎2, 4929-07-73], 300m, July. 23. 1998, (No. 17867)

長崎県各地の山地のやや湿った崖地に見られるが, 長崎市やその周辺地域からは知られていなかった。上記の産地は宮崎勉氏が発見したものである。生育地は竹林の中の露岩地で多くの個体が生育している。

198. ナメラダイモンジソウ *Saxifraga fortunei* Hook. fil. var. *suwoensis* Nakai (ユキノシタ科)

長崎市松崎町神浦川上流 [神浦2, 4929-25-39], 160m, Mar. 7. 1998, (No. 17395)

これまでカエデダイモンジソウとよばれてきたもので, 葉は腎円形で中裂する。長崎県では

多良山系, 外海町, 大瀬戸町などに知られていたが, 長崎市の北部にも産することがわかった。199. ヒメキランソウ *Ajuga pygmaea* A. Gray (シソ科)

壱岐郡郷ノ浦町海豚鼻 [勝本4, 5029-45-57], 15m, Sept. 25. 1998, (No. 17966)

典型的な九州西廻り植物 (中西1996) で, その分布と産地は中西 (1995) によって報告されている。それによると北限は佐賀県波戸岬であるが, 今回それよりも北の壱岐の南端の海岸崖地に生育しているのを発見した。本種の北限自生地となる。

200. シマバライチゴ *Rubus lambertianus* Seringe (バラ科)

南高来郡千々石町飯岳川中流 [肥前小浜1, 4930-11-18], 330m, Apr. 19. 1998, (No. 17508)

シマバライチゴの分布については山田 (1992) が詳しく調べ, その産地として島原市をはじめ, 有家町, 西有家町, 大村市を記録している。千々石町飯岳川中流から上流にかけて多くの個体が生育しているのを発見した。

201. アズキナシ *Sorbus alnifolia* (Sieb. et Zucc.) C. Koch (バラ科)

長崎市悪所岳 [長崎2, 4929-07-11], 500m, July. 20. 1998, (No. 17833)

冷温帯域ではふつうに見られるが, 長崎県では対馬を除くと, 雲仙山系, 多良山系, 国見山などの限られた地域に見られるのみである。伊藤 (1997) は, 対馬では海拔が低い所から見られるが, 本土側雲仙岳では海拔800m以上の所に見られるとしている。上記の産地は海拔500mと低い, 樹勢は良い。

参考文献

- 伊藤秀三 (1997) 総説: 日韓海峡域の植物と植生の地理学. 長崎大学教養部紀要 (自然科学篇) 38(1): 25-51.
松林文作 (1981) 長崎県シダ植物誌. 104pp., 長崎出版文化協会, 長崎.
中西弘樹 (1995) 九州西廻り分布を示す植物数種. 長崎女子短期大学紀要 19: 81-85

中西弘樹(1996)九州西廻り分布植物：定義，構成，起源. 植物分類地理47：113-124.

外山三郎(1980)長崎県植物誌. 312pp. , 長崎県生物学会, 長崎.

山田スミコ(1992)シマバライチゴの分布と生態.

長崎県生物学会誌. 41：5-20.

(なかにし・ひろき；850-8512 長崎市弥生町666 長崎女子短期大学, 現所属：〒852-8521 長崎市文教町1-14, 長崎大学教育学部生物学教室)